

日文研の地域連携活動より

日文研の先生方による出前授業

林 正幸

平成八年度、「日文研の先生方に小学校で授業をしていた
だきたい」、村田喬子第三代校長が国際日本文化研究セン
ター所長でいらっしやった河合隼雄先生にお願いをされ、河
合隼雄所長をはじめ高名な教授の方々が快諾されて実現とな
り、この授業が始まりました。今年度は、その平成八年
(一九九六年) から一九九年目になります。

桂坂小学校ではこれまでから「人とよりよくかかわり、楽
しくまなぶ桂坂の子」を学校教育目標に掲げ、日々教育活動

を進めているところです。また、一人一人の子どもに「生き
る力」を育成し、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を
十分に果たし、相互に連携し合う「地域と結ばれた学校」の
実現にも努めております。学校として地域社会に積極的に働
きかけ、子どもたちが地域の活動に積極的に参加するよう
に支援するとともに、地域の教育力を学校に頂戴しながら、と
もに子どもを育てる教育環境を創造し、その活動を展開して
いきたいと考えております。

平成二五年度も五・六年生各四クラス、八名の先生から
『授業』をしていただきました。その中で今回はお二人の先
生からの授業につきまして紹介いたします。

細川周平先生からは「ブラジルってどんな国？」という題
目で、サッカーW杯やオリンピックの開催国として今話題の



桂坂小学校での授業風景
上：細川周平先生
下：北浦寛之先生

ブラジルについて、歴史や日系移民、ワールドカップやオリンピックなど幅広いお話をいただきました。子どもたちは最近よく耳にする関心のある国のことだけに興味をもって聞き入ることができました。

北浦寛之先生からは「宮崎駿映画の魅力」という題目の授業で、宮崎映画の魅力を「天空の城ラピュタ」をもとに考えるものでした。多くの子どもたちは「ラピュタ」を観たことがあり、どんな話だったかは知っていました。しかし、北浦先生から、「映画の中にはシータが空から落ちるシーンがあるけれど、それぞれに重要な意味があるのだ。」と教えていただき、それぞれのシーンの中に物語の重要な伏線がかくれていることに気付いた子どもたち。今回は、周りの見方が変わり、自分の思いが広がることがあると改めて感じる一時間でした。

保護者の方からも学校評価の記述欄に「日文研の先生に学んだことは、学問の広さを感じるきっかけになったのではないかと思います。せっかくの機会なので、多くの先生のお話を聞くことができたらと思います。」と記入いただくこともありました。子どもも保護者も高学年になったら、お隣の日文研の先生方による授業が受けられると期待をされている

ところです。

日文研の皆様のご協力によりこれまで継続して実施されてきました授業は、子どもたちにとって、「小学生の時にそれぞれの学問について深く研究されている学者の先生が教室に来てくれて授業をしてくださった」といつまでも残るものとなっております。

今後も、この『授業』の取組を、日々のお忙しい研究活動の中で何とかお時間をつくっていただき続けていただくこと、必ず子ども心に生涯にわたって残り、「生きて働く力」となるものと確信しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(京都市立桂坂小学校校長)